

# あてつまんさく

## 新見地域の農業情報

普及だより 2013年号



新見農業普及センター

## ■ 1 トピック

### りんどう産地のユニークな取り組み

岡山県のりんどう生産は全国7位、西日本1位です。新見市は県のりんどう出荷量の約6割を占める、県下最大の産地です。選花場での完全共選による徹底した選別の良さにより、取引市場から非常に高い評価を受けています。

普及指導センターでは農協等関係機関と協力しながら、りんどうの生産振興を進めていますが、近年は次のような個性的な取組を行っています。

#### (1) 『粉碎樹皮』の利用

りんどうは同じ株を据え置いて5年以上切り花できますが、連作を嫌うため植え替えするときはほ場を替えます。同じほ場で栽培するためには、土を替えるしかありませんが、交換するなら軽くて、安い土（培地）が欲しいところです。そこで目を付けたのが『粉碎樹皮』です。県内で生産される檜や杉の樹皮を細かく粉碎したもので、「軽く」、「安い」資材で、りんどうの培地にちょうどよいものでした。

平成23年度、コンテナに粉碎樹皮培地を詰めて栽培を始め、24年度は普通の栽培方法と変わらぬ出荷ができました。今年度は、「軽い」ことを活かして、コンテナをハウスに搬入し、花を昨年より早く出荷することにも成功しました。りんどう栽培で問題になる「もぐら」の被害も見られないので、生産者の関心が高まっています。

また通常栽培のほ場に土壌改良資材として利用する方法も検討を始めました。すぐに実用化というわけにはいきませんが、土作り資材としても有望ではないかと考えています。



▲ 樹皮を詰めたコンテナ



▲ 粉碎樹皮を使ったコンテナ栽培

#### (2) 『りんどう染め』の試み

「りんどうの美しい花色をとどめたい。」という、りんどう生産者の思いを受けて、24年度から「りんどう染め」に取り組んでいます。りんどうの花色はデリケートで、毎回染まりかたや色合いが微妙に違ってきますが、やさしい青色や桃色に染まります。

花を一つ一つ摘み取って色を揉み出すなど、大変手間がかかる上、工業製品のように品質が一定ないので、すぐに商品化するのは難しいですが、こうした取組を行うことで、新見のりんどうに関心が高まることを期待しています。



▲ 「りんどう染め」色素抽出作業

# 目 次

<b>1 トピック</b>	P1
りんどう産地のユニークな取り組み	
<b>目 次</b>	P2
<b>2 技術情報</b>	P3
大きい粒のシャインマスカットをつくろう！	
ももの害虫の発消長調査	
がんばれ！にんにく！（泥）臭さをみせろ！！	
がんばれ！こどもピーマン！知名度を上げろ！	
暑さに負けないトマト作りへむけて	
除草剤利用による畦畔管理の省力化	
加工米に適した品種の選定	
イネWCS 新品種「たちあやか」実証ほ	
米粉利用にむけて	
<b>3 担い手情報</b>	P9
就農準備講座～ピオーネ、もも、りんどう、トマト～	
新見農業士会の担い手確保育成支援	
集落営農に取り組んでみませんか	
認定農業者のステップアップに向けて	
人・農地プランを生かしましょう	
<b>4 今年輝いた人</b>	P12

表紙写真：就農準備講座りんどうコース、ももせん定実習、  
トマト部会 GAP 相互巡回、岡大生との交流意見交換会

## ■2 技術情報

### 大きい粒のシャインマスカットをつくろう！

ぶどうの新品種「シャインマスカット」は、種無し、大粒、高糖度で食味が良く、皮ごと食べられることから人気急上昇しています。新見地域でも3.2haで栽培されており、今後増加が見込まれますが、定着するにはピオーネ以上に「儲かること」が要求されます。

そこで、普及センターでは食味はもちろん、一目見て他とは明らかに優れているとわかる、粒重20gの大粒シャインをめざし技術確立に取り組んでいます。



▲ シャインマスカットの果房

#### 今年度の取組

大粒系ぶどう地域技術組立研究会の協力をいただき、大粒生産の事例調査を行いました。併せて開花期前後の追肥による果粒肥大効果を検証しました。

また、山形県の「南果連」、山形県農業総合研究センター園芸試験場、茨城県農業総合センター園芸研究所にて大粒生産技術を研修しました。

さらに東京の果物専門店「サン・フルーツ ミッドタウン店」を訪問して、高級果物の販売に関する要望を聞き取り調査しました。



▲ 山形県「南果連」での視察研修

表 追肥による果粒肥大促進実証結果（4年生樹）

	果房重	果粒重	果汁糖度	着果量
追肥区	462.5g	13.1g	16.0%	1390kg/10a
対照区	429.5g	10.1g	18.3%	1290kg/10a

#### 調査から得られたこと

事例調査では、果粒肥大は成木で優れ、成木でも樹勢の強い樹で大粒生産される傾向がみられ、栽培実証では、追肥の果粒肥大効果が確認できました。

視察研修でも大粒生産には、樹勢を強く保つことが必要と指摘されました。第2花穂を使うこと、副梢を積極的に活用すること、果房付近を高温にしないこと等も学びました。

上記から、大粒生産を達成するためには、樹勢強化が必要という結果となりました。

サン・フルーツでは、果房重700gであること、きれいな緑色であること、そして果粒は大きければ大きいほど良いという指摘をいただきました。

普及センターでは、次年度に向けて樹勢強化の啓発を行い、「糖度20度、粒重20gの大粒シャインマスカット」の目標を早期に達成するため、大粒系ぶどう地域技術組立研究会、JA、その他関係機関と連携して、取組みをすすめていきます。

## ■2 技術情報

### ももの害虫（ナシヒメシンクイ）の発消長調査から

#### ナシヒメシンクイの生態

ナシヒメシンクイは、枝や果実を加害する害虫で、新見市のもも産地でも多発しています。

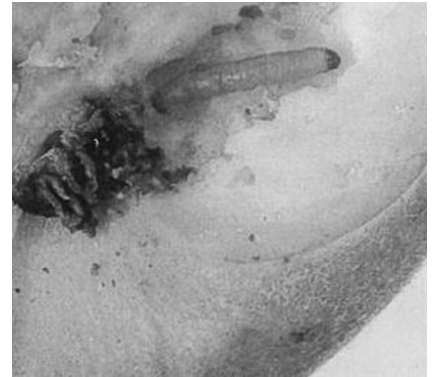
成虫は4月上旬から9月下旬まで発生します（写真1）。枝での被害は、5月から7月にかけて新梢に幼虫が食い込み先端を枯らしめます（写真2）。果実での被害は、7月から9月まで幼虫が果実に食い込みます（写真3）。



▲ 写真1 成虫（体長約6mm）



▲ 写真2 枝の被害



▲ 写真3 果実の被害

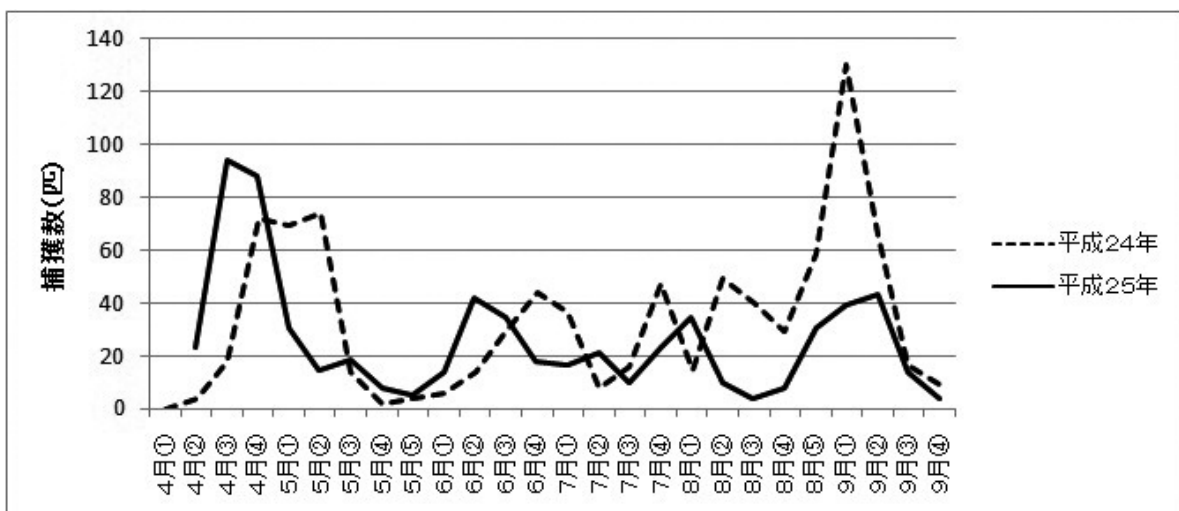
#### 新見市のもも産地での発消長調査

平成24年度と今年度、新見市草間でナシヒメシンクイのフェロモントラップを設置し、4月から9月にかけて1週間毎の捕獲数を調査しました。

その結果、ナシヒメシンクイの発生は、4月後半から5月前半にかけてと、8月の終わり頃から9月前半にかけての2回大きなピークがあることが分かりました（下グラフ）。

黄金桃は成熟期（9月中下旬）の落果が他の品種に比べて多いですが、調査結果から生理的落果だけでなくナシヒメシンクイによる落果も多いと推測され、収穫前の応急防除をお願いしました。その結果、防除したほ場では例年より落果が少なくなりました。

今後は、この調査結果を来年度以降の防除暦の作成に活用します。



▲ グラフ フェロモントラップによるナシヒメシンクイ捕獲数

※写真1, 2, 3は「岡山県適用 農作物病虫害雑草図鑑(山陽放送)」より引用

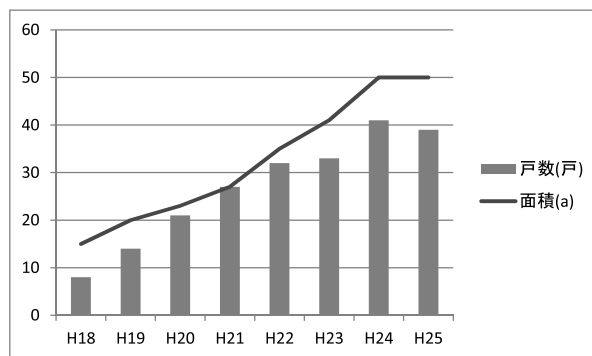
## ■2 技術情報

### がんばれ！にんにく！（泥）臭さをみせろ！！

平成17年から本格的に栽培の始まった新見のにんにく。24年産からは、県下統一規格の「金太郎にんにく」として出荷を始めました。

これまで、規格に満たなかった小さいものやバラ片は、直売所に集中、値崩れを起こしていましたが、今年度からは「小金太郎」とよんでいるMサイズの規格ができ、市場への出荷量が増え、直売所への集中も少なくなりました。栽培面積は少しずつ伸びているものの、50a程度ともう一息がんばりが必要です。

そんな中、新たな動きとして、黒にんにくへの加工がブームとなりつつあります。市販の炊飯器を使って、発酵させるというやり方がほとんどですが、「金太郎にんにく」を仕入れて加工している方もあります。（「金太郎にんにく」は商標登録されており、商標等の使用には全農への使用許諾申請が必要です。）新見のにんにくがA級グルメの陰の立て役者になる日もそう遠くない！？



### がんばれ！こどもピーマン！知名度を上げろ！



平成23年から新見地域で栽培が始まったのは「こどもピーマン」。苦みが少なく、肉厚でジューシーなのが受けて、好きになる子供たちが続出しています。

しかし、子どもたちの嫌いな野菜NO.1を独走してきた「これまでのピーマン」の影響は大きく、なかなか多くの方には受け入れてもらえません。直売所でのポップによるPRやレシピの提供なども焼け石に水と言ったところです。

そんな状況を知ってか知らずか、この夏、新見のこどもピーマンが2度もテレビ出演しました。なかでも、8月25日放送されたNHKの「月刊やさしい通信」は、全国放送の上、8月29日のお昼休みに再放送され大きな反響を呼びました。

苦くないピーマンとして、子供たちに受け入れられる日が1日も早くやってくることを祈らずにはられません。がんばれ！こどもピーマン！！

## ■2 技術情報

### 暑さに負けないトマト作りへむけて

今年の夏は全国的にも酷暑でした。夏秋トマトは夏場の冷涼な気候が必要な作物で、今年も裂果、日焼け、樹勢低下などが問題となりました。また暑さだけでなく、連続した降雨も樹勢のコントロールをむずかしくさせました。

昨今、夏秋トマトは9月～10月の単価が高い状況が続いており、秋まで樹勢を維持し収量および販売額を上げることが課題となっています。そこで今回種苗会社の協力で、樹勢維持のための接ぎ木栽培試験を行いました。試験ほ場は種苗展示会にあわせて、7月と9月JA阿新トマト部会員や他産地の生産者、関係者に見学してもらいました。

褐色根腐病に強いグリーンガードを台木に穂木を桃太郎サニー、桃太郎セレクトとし、自根と比較しました。根の伸長をみると、接ぎ木の根は太く量も多かったのに対して、自根は褐色根腐病の被害が多く、根張りも接ぎ木より劣りました。収量は接ぎ木セレクト $\geq$ 自根サニー $>$ 接ぎ木サニー $>$ 自根セレクトという結果になりました。収量差の要因としては着果数の差が考えられましたが、根量等の状態との関連は判然としませんでした。また接ぎ木セレクトは、大玉でしたが地上部の葉の繁りが少なく、小葉の特徴が顕著に表れ、収量が多いものの裂果がはげしく商品化率は下がりました。

今年のトマト部会の品種構成は桃太郎エイト22%、桃太郎サニー42%、桃太郎セレクト36%でした。24年度セレクトは秀品率が高く、サニーより樹勢が強いことから今年の作付けは増えましたが、生産者の中には今年のセレクトは小玉傾向で着果がよくないという意見もありました。酷暑や天候不順の中では、セレクトのいい特徴が発揮できませんでした。気象条件を考慮した品種選定の必要性も感じました。



▲ 品種別のトマト試食会（7月）



▲ ブリーダーからの講習（9月）

トマト部会員にとっては忙しい時期の展示会でしたが、トマトの最盛期にはほ場の手入れが行き届き、病害虫の発生が少ないことに驚いた、自分たちもがんばらないと気が引き締められたという声が聞かれました。

## ■2 技術情報

### 除草剤利用による畦畔管理の省力化

畦畔管理は、見た目だけではなく、斑点米カメムシをはじめとする病害虫の防除のためにもとても重要な作業です。しかし、年に3～4回の草刈りは農家にとって大きな負担となっており、熱中症や刈り払い機による事故の心配もあります。今年、普及センターと農協で、除草剤を利用した畦畔省力管理の実証試験を行ったので紹介します。

12月4日に畦畔に粒剤の除草剤（カソロン粒剤 6.7）を散布しました。5月頃まで効果が持続しました。

② 雑草が生えてきたため、6月3日に非選択性の液剤の除草剤（ザクサ液剤）を散布しました。

③ 再び雑草が生えたため、7月17日に非選択性の液剤の除草剤（ザクサ液剤）を散布しました。

12月上旬から9月上旬の稲刈りまで、除草剤を3回散布することで、1度も草刈りをしませんでした。畦畔の崩壊はありませんでした。

来年以降は、崩れる心配がある畦畔で5～6月に1回草刈り後、7月に除草剤を散布したり、雑草を完全に枯らさず草丈を抑制させる薬剤を処理する実証試験を計画しています。



▲ 液剤散布前の畦畔の様子

### 加工米に適した品種の選定

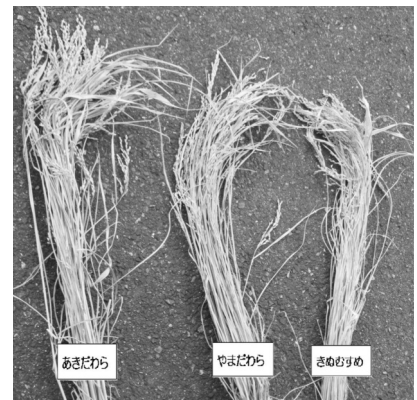
新見地域では新たな転作作物として加工用米を推進しています。国の研究機関で多収性を目的に育成された品種が新見地域に適応するか試験をしました。

品種 あきだわら、やまだわら  
きぬむすめ（比較対照）

場所 哲西町大野部

移植 6月8日

施肥 苗箱まかせ（N:P:K=40:0:0） 550g/箱  
らくだ君 500（N:P:K=25:10:10） 15kg/10a



▲ 穂（10月7日刈り取り）

品種	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/㎡)	精玄米重 (kg/10a)	倒伏 (0～5)	一穂 籾数	登熟歩合 (%)
あきだわら	8.17	不明	86	20.8	323	643	1	157	65
やまだわら	8.21	不明	86	21.6	354	521	0	136	50
きぬむすめ	8.20	10.7	85	18.9	355	600	2	113	72

あきだわらとやまだわらは登熟が遅く、収穫日の10月7日はまだ成熟していませんでした。登熟歩合が向上すれば多収が望めると思われるため、来年は移植時期を早めて試験を行う予定です。



## ■2 技術情報

### イネWCS新品種「たちあやか」実証ほ



▲ 現地で収穫実演

新見市では、平成19年度からイネWCSの栽培が始まり、今年度は市全体で約22haと大きく広がっています。

品種は「クサノホシ」にかわり、収穫作業の分散や収量・品質の向上を図るため草丈が高く、粉が小さい新品種「たちすずか」が導入され、徐々に拡大してきました。「たちすずか」は極晩生ですが、今年から性質はほぼ一緒に収穫が早くできる中生種「たちあやか」の地域適応性を見るため、哲西町大竹地区に実証ほを設置し、従来品種「クサノホシ」「たちすずか」と比較を行いました。

「たちあやか」は従来品種「クサノホシ」より草丈が高く、また出穂が8月中～下旬なので早く収穫できることが分かりました。これは高冷地などで栽培するには適していると思われます。

10月1日には生産者や利用者が集まって現地研修会を行いました。今までの生育経過や栽培のポイントについて紹介し、実際に「たちあやか」のほ場や収穫作業を見ることで、地域の来年の作付計画に役立ててもらいました。

### 米粉利用にむけて

新見市は中国地方でもいち早く米粉（微細粒粉）の利用に取り組んでいますが、まだ十分認知されているとは言えません。そこで、新見市米粉利用促進協議会では、米粉PR活動に継続して取り組んでいます。

その中で、9月28日（日）には、新見市哲西町の「道の駅 鯉が窪」で「新米と米粉の収穫感謝祭」と題してPRイベントを開催しました。

当日は、米粉を使った焼きそば、ドーナツ、クッキー、米粉パン（揚げパン）等を販売したほか衣



▲ 米粉製品のPR

に米粉を使った天ぷらの試食や米粉に関する情報提供、米粉利用状況についてのアンケートを行いました。来場者の中には、「大学生の息子が米粉をよく使うので、下宿先によく送ります」という方もおられました。アンケートでは、我が家で米粉を使ったことがない人でも米粉を使った製品は知っており、米粉のパンやケーキ等を購入したり、お店で食べたことがあるという回答がみられました。また、「米粉の使い方をもっとPRしてほしい」という声も多くありました。今後、PRの回数や場所を検討し、自給率向上の点からもいっそうの米粉利用を進めていきたいと考えています。

### ■3 担い手情報

#### 就農準備講座～ピオーネ、もも、りんどう、トマト～

定年退職後や新しい作目へのチャレンジとして、新見の特産物の栽培を始めようとする方を対象に、実習を中心とした就農準備講座を開催しています。

今年は、ピオーネコースが豊永、ももコースが草間、りんどうコースが神郷高瀬、トマトコースが哲多町荻尾で開催されました。講座では、平日午前を中心にそれぞれ先輩農家から直接指導を受けながら、栽培の基本を学びました。

1年間を通して作業の要所が体験でき、ベテラン農家ならではの作業のコツも伝授して頂けるので、受講された農家の方からは「作業の流れが具体的に理解でき、とてもためになる。」と大変好評です。

就農準備講座は来年も開催します。参加は無料（軍手等は持参してください）ですので、興味がある方は普及センターまでお問い合わせ下さい。



▲ 就農準備講座の様子

#### 新見農業士会の担い手確保育成支援

新見農業士会（会長：橋本澄男 会員 17 名）では、農業の担い手の確保・育成に対する指導・助言や地域活性化に対する提言活動を行っています。

今年度の研修会では、農業ベンチャーの確保育成に力を入れている農業参入企業「(株)パソナ農援隊」を視察し、栽培技術に加え、経営計画の早期樹立や実践販売等経営感覚を磨く研修内容や、廃小学校を活用した直売所やレストランの複合施設「のじまスコーラ」を核とした雇用対策及び地域活性化策について学びました。

また、新見市長との「新見の農業を語る会」では、小規模でも新規就農者用の農業団地を造成できないか、高齢者の園地を新規の人に継いでもらいたいなど、担い手育成や農業振興について積極的な提言・意見交換を行いました。



▲ 市長との「新見の農業を語る会」

### ■3 担い手情報

#### 集落営農に取り組んでみませんか

地域の将来に不安を感じる声を耳にしませんか？

新見市では、担い手の減少や高齢化が年々進み、遊休農地が拡大しています。

また、水稻栽培を今後も継続していく上で、コンバインの買い換えなどの設備投資も大きな負担となっています。

集落営農のメリットは？

1. 機械を共同で使えば安上がりです。
2. 集団で行う農作業は、楽しくて効率的です。
3. それぞれの得意分野に応じた役割分担ができます。
4. みんなで取り組めば、農地の保全が図られます。
5. 集落の心のつながりが深まります。



集落営農は、①生産の効率化、②コストの低減、③農地の保全管理など、地域の実情に応じた様々な運営ができます。地域の将来のために、まずは身近な方何人かで集まって、話し合いを始めてみませんか？

#### 認定農業者のステップアップに向けて

普及指導センターでは、認定農業者や新規就農者の経営管理能力の向上にむけて、専門家を講師に招いた研修会を実施しています。

今年度は、農家を取り巻く税金や決算・分析に関する研修会等を開催しました。



▲ 認定農業者ニュースをお届け

また、夫婦や親子が共同経営者として責任と意欲をもって経営に参画できるよう、農業・生活の役割分担や収益分配などを取り決めた「家族経営協定」の締結をすすめ、調印式に立ち会いました。

他にも、認定農業者ニュースを発行、普及指導員が個別訪問し、農業を取り巻く話題や農業制度資金等についてお知らせしています。

今後も引き続き研修開催や情報提供を行う予定ですので、研修内容へのご要望等お待ちしております。

## ■3 担い手情報

### 人・農地プランを生かしましょう

人・農地プラン（以降プラン）は国の制度により、昨年度から全国で作成が進められているもので、10年後も農地が維持できるように、行政主体でなく、地域自らが主体となり地域の話し合いで作成される計画です。具体的には、10年後も農業を続けて、地域農業を支えていくことを表明した人を**中心経営体**として、地域の賛同者で決めることです。新見地域でも、本年度末までに、全域で作成予定です。国では、様々な制度をプランに基づいて実施予定です。新見市では、全域でプランが作成されることで、様々な国の制度を活用する準備が整います。今後、中心経営体となって新たな取組を予定されている方は、来年度の国の事業を注視していく必要があります。次のメールマガジンを登録して、情報収集してみたいはいかがでしょうか。



▲ 人農地プラン検討会の様子

○**ホームページ**：農林水産省 農業担い手メールマガジン<“**担い手 メルマガ**”で検索>

**中心経営体のメリット措置**として、主に次の事業が上げられます。

- ①青年就農給付金（経営開始型）
- ②スーパーL資金の5年間無利子化
- ③経営体育成支援事業（機械等導入時の融資残補助 3/10）

また、中心経営体に農地を預けることで、預けた人が受けられる、経営転換協力金は、農地を集積するための間接的な支援になると考えられます。

①青年就農給付金（経営開始型）について、新規参入者が受ける場合が多いですが、農家子弟が後継する場合に引き継ぐときの不安定な時期に受けて、経営を軌道に乗せる場合も該当します。また、地域で可能性がある部会の仲間がいたら活用を検討してください。後継者による経営継承拡大のきっかけになる可能性があります。（それぞれの事業は、要件等により、必ずしも事業を受けることができるとは限りません。）

ただし、農地の集積に関しては、来年度から県段階に**農地中間管理機構**ができて、農地流動化が加速される一方で、機構を通じた集積が事業の要件になる予定です。

以上のように、これから国の事業は、プランを中心に動いていくので、それを生かして経営改善を図る必要があります。プランは地域農地の担い手を考えるきっかけにすぎないので、継続して地域農業について話し合いましょう。担い手が不在の場合は集落全体で営農を考える、集落営農に取り組むことも一つの方法です。地域の話し合いや経営のシミュレーション、上記の内容のご相談等は普及センターまで問い合わせください。

また、あらたに中心経営体になりたい人は市役所、農業委員会まで問い合わせください。

## ■4 今年輝いた人

(このコーナーは敬称を略させていただきます)

### 平成 25 年度 岡山県うまいくだもの共進会 (ニューピオーネ・オーロラブラック共進会)

#### ニューピオーネの部

岡山県知事賞 植田 正二 (豊永)

うまいくだものづくり推進本部長賞

優 秀 賞 吉岡 朝晴 (豊永)

奨 励 賞 清原 保 (豊永)

〃 米谷 信義 (豊永)

〃 福田 昇 (豊永)

#### オーロラブラックの部

岡山県農業共済組合連合会会長賞 田中 邦男 (豊永)

岡山県うまいくだものづくり推進本部主催で平成 25 年 7 月 17 日、9 月 6 日、10 月 1 日の 3 回に分けて開催され、出品点数はニューピオーネが合計 139 点、オーロラブラックが合計 19 点ありました。ニューピオーネは平均果粒重 17.7g、平均糖度 17.2 度、オーロラブラックは平均果粒重 18.7g、平均糖度 17.5 度と甘みが強く食味は良好でした。

### 平成 25 年度 新見市ピオーネ共励会

最優秀賞 岡山県知事賞 河原 咲美 (豊永)

優 秀 賞 新見市長賞 田中 邦男 (豊永)

〃 備中県民局農林水産事業部長賞 米谷 信義 (豊永)

〃 岡山県農業協同組合中央会長賞 石川 勝美 (豊永)

〃 全国農業協同組合連合会岡山県本部長賞 清原 保 (豊永)

〃 岡山県農業共済組合連合会会長賞 吉岡 朝晴 (豊永)

平成 25 年 9 月 18 日、JA 阿新生活センターで開催されました。今年は審査員に市場関係者にも参加してもらいました。生産農家 46 戸が 4 房を 2kg 箱に詰めて出品、平均果粒重 18.3g、平均糖度 17.5 度と優れたものが出品されていました。

### 平成 25 年度 新見市桃共励会

最優秀賞 新見市長賞 藤野 進 (草間)

優 秀 賞 備中県民局長賞 堀江 利明 (草間)

〃 備中県民局農林水産事業部長賞 平田 政夫 (草間)

〃 岡山県農業協同組合中央会長賞 梶上 勤 (草間)

〃 全農おかやま県本部長賞 清本 敬二 (草間)

平成 25 年 8 月 2 日、JA 阿新生活センターで開催され、白鳳 15 点、浅間白桃 18 点、まどか 3 点、末木白桃 1 点、あかつき 2 点等、合計 39 点の出品があり、糖度は平均 13.8 度、最高 16.8 度でした。

## ■4 今年輝いた人

(このコーナーは敬称を略させていただきます)

### 平成 25 年度 岡山県花き共進会

奨励賞	岡山県花き生産協会会長賞	(トルコギキョウ)	白石 昌義 (哲西)
〃	〃	(りんどう)	上田 博園 (千屋)
〃	〃	(りんどう)	田辺 薫明 (神郷)

平成 25 年 7 月 31 日、津山市文化展示ホールで開催されました。県内から切り花 158 点、枝葉物 1 点、鉢物・苗物類 1 点の計 160 点の出品があり、新見市から 3 名の方が入賞されました。

### 平成 25 年度 新見市花卉共進会

最優秀賞	新見市長賞	(りんどう)	谷村 悦子 (菅生)
優秀賞	備中県民局長賞	(輪 菊)	伊東 政隆 (神郷)
〃	備中県民局農林水産事業部長賞	(りんどう)	田辺 薫明 (神郷)
〃	岡山県農業協同組合中央会長賞	(りんどう)	川井 敏子 (法曾)
〃	全国農業協同組合連合会岡山県本部長賞	(りんどう)	奥山 亮 (哲多)
〃	〃	(ブルーアスター)	白石 昌義 (哲西)

平成 25 年 9 月 18 日、JA 阿新生活センターで開催されました。

### 第 68 回 岡山県畜産共進会

優等賞首席 (グランドチャンピオン)	若雌区の 2 「てった 24210」	(有)哲多和牛牧場
優等賞首席 (リザーブチャンピオン)	若雌区の 4 「第 7 あおき」	有藤 剛 (哲多)
優等賞首席	若雌区の 1 「第 8 あおき」	有藤 剛 (哲多)



平成 25 年 10 月 20 日、真庭市の総合家畜市場で開催されました。県内各地の予選を勝ち抜いた和牛 54 頭、乳牛 89 頭が出場しました。新見市は 8 頭が優等賞に選ばれ、団体優勝も獲得しました。

同日、表彰式にあわせて畜産功労者に県知事感謝状が贈られました。  
安達勝信 (哲西)、宗長堅吾 (土橋)、新木省二 (大佐)

### 第 52 回 岡山県枝肉共進会

和牛・去勢の部	最優秀賞首席	J A 阿新千屋肥育センター
和牛・雌の部	最優秀賞首席	J A 阿新千屋肥育センター
肉豚の部	最優秀賞首席	岡山 J A 畜産(株)吉備農場

平成 25 年 12 月 5 日、岡山県営食肉地方卸売市場で開催されました。県内からは、和牛去勢牛 50 頭、和牛雌 15 頭、肉豚 (2 頭 1 組) 30 組が出場しました。

## ■ 4 今年輝いた人

(このコーナーは敬称を略させていただきます)

### 平成 25 年度 農事功績者表彰

### 吉岡朝晴 (豊永)



桂宮宜仁親王殿下が総裁をつとめる公益社団法人 大日本農会が主催する農事功績者表彰の「緑白綬有功章」を受賞されました。

表彰式は平成 25 年 11 月 22 日、三会堂ビル 9 階石垣記念ホールにおいて行われました。

今回の表彰は、長きにわたる努力と創意工夫によって新しい技術や経営改善に取り組み、経営基盤を確立し地域のリーダーとして産地形成や青年農業者の育成等に貢献された功績が認められました。

### 平成 25 年度 岡山県農林漁業功労者表彰

平成 25 年 10 月 20 日、おかやまファーマーズ・マーケット ノースヴィレッジで開催された「岡山あぐり総合フェア 2013」の会場において、長年の農林漁業振興のための献身的な活動が評価され表彰されました。

#### ■ 知 事 表 彰

谷村悦子 (菅生)  
(農産部門)



二摩紀昭  
(団体指導者部門)



#### ■ 農林水産部長表彰

多賀えつ子 (神郷)  
(農産部門)



### 平成 25 年度 全国優良経営体表彰

### 橋本澄男 (神郷)

農林水産省及び全国担い手育成総合支援協議会共催の全国優良経営体表彰があり、個人経営体部門で「全国担い手育成総合支援協議会長賞」を受賞されました。

この賞は意欲と能力のある農業者の一層の経営発展を因るため、農業経営の改善に積極的に取り組み、地域農業の振興・活性化に優れた功績をあげた農業者を表彰するものです。

# 新見地域の主な農産物



岡山県備中県民局農林水産事業部  
新見農業普及指導センター

〒718-8550 岡山県新見市高尾 2400  
経営・担い手班 TEL(0867)72-9177  
産地指導班 TEL(0867)72-9179  
FAX(0867)72-0495

e-mail: niimi-fukyu@pref.okayama.lg.jp  
facebook ホームページ **新見農業**



QR コード

で検索して下さい